

2013 年度

# 訪中団 感想文集

9月12～15日／上海

11月2～6日／武漢

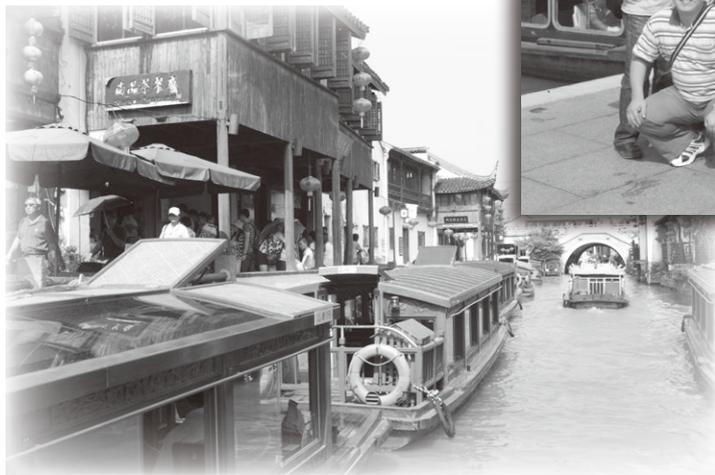
日中經濟交流研究会

# 訪中団感想文集

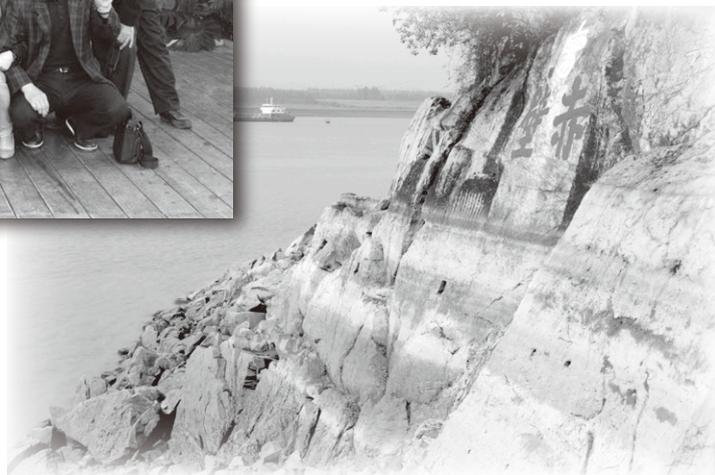
## Index

2013年度 日中経済交流会 訪中団スケジュール .....	2
日中経済交流研究会 会長 樋爪 伸二 .....	3
アベル株式会社 居相 浩介 .....	4
大山印刷株式会社 大山 武久 .....	4
三恵ハイプレジジョン株式会社 落合 良寛 .....	5
株式会社 ギャレークルー 合田 耕作 .....	5
明星印刷株式会社 高橋 恵之 .....	6
株式会社インターフォワードシステムズ 中本 久美 .....	7
株式会社インターフォワードシステムズ 羽田 美佐子 .....	7
株式会社インターフォワードシステムズ 廣田 陽子 .....	8
瑞穂産業株式会社 水本 雅博 .....	8
株式会社ナニワ製作所 馬場 順一郎 .....	9
有限会社三喜製作所 三宅 喜夫 .....	10
田中商事株式会社 尾崎 俊哉 .....	11
株式会社熱気球 許 媛 .....	12
アジアプランニング株式会社 近藤 淳 .....	13
株式会社豊田製作所 豊田 浩二 .....	14
川本工業株式会社 中野 幹生 .....	15
福地金属株式会社 福地 守 .....	17
株式会社リアルエステート大阪 代表取締役 若原 朋之 .....	18
有限会社天満合同会計 大塚 教進 .....	19
同友会事務局主任 和田 太三朗 .....	20

9月



11月



# 2013年度 日中経済交流会 訪中団 スケジュール

日付	行動予定	集合開始時間	出発時刻	到着・終了時刻	備考
2013/9/12 木	関空→上海	7:30			
	集合場所 Gカウンター前		9:40	10:55	MU730
	空港→上海マート		11:50	12:50	バス移動
	上海マート視察				日中ものづくり商談会@上海2013
	上海マート→ホテル	17:00			
	上海泊				宿泊ホテル:
2013/9/13 金	上海→蘇州	7:50	8:00	10:30	バス移動
	蘇州タカラ視察			18:00	
	現地企業視察				
	蘇州泊				宿泊ホテル:
2013/9/14 土	現地企業視察	8:50	9:00	17:00	
	蘇州泊				宿泊ホテル:
2013/9/15 日	蘇州→上海	7:50	8:00	10:30	バス移動
	上海視察				
	市内→空港		15:00	16:30	バス移動
	上海→関空		18:25	21:30	MU729
	解散				

日付	行動予定	集合開始時間	出発時刻	到着・終了時刻	備考
2013/11/2 土	関空→上海→武漢	7:40	9:40	15:25	MU730 9:40/11:00(関⇒上)
	集合場所 Gカウンター前				MU2508 13:10/14:55(上⇒武)
	夕食(結団式)	18:00		20:00	宿泊ホテルの食事会場
					宿泊ホテル : 帝盛大酒店(4つ星)
2013/11/3 日	赤壁視察		8:30	16:00	
	夕食			18:00	
					宿泊ホテル : 帝盛大酒店
2013/11/4 月	シスプロ 視察	8:00	10:00	12:00	
	昼食		12:00	13:00	
	華中科技大学		13:30	15:00	中国で10指に入る大学
	城南製作所訪問		15:30	17:00	
	夕食 および 情報交換会		18:00	20:00	大阪府上海事務所 上山所長
					(株)シスプロ 興津総経理 との食事
					宿泊ホテル : 帝盛大酒店
2013/11/5 火	華中科技大学 外国語学院(日本語科)	10:30	11:30	12:20	东湖高新技术开发区文華园路8号、
					担当 : 刘玮莹助教授
	大学の先生、生徒との食事会		12:20	13:30	
	孝感市開発区企業訪問		13:30	17:00	湖北省政府推薦による工場見学
					矢崎孝感、孝感市のローカル工場 2社
	孝感市政府主催歓迎夕食会		18:00	20:00	湖北省政府 外弁部・孝感市政府、
					大阪府上海事務所 上山所長
					宿泊ホテル : 帝盛大酒店
2013/11/6 水	武漢→上海→関空				
		8:00	11:30	18:30	MU577 11:10/12:30(武⇒上)
					MU9821 15:25/18:30(上⇒関)

# 2013年度第一次(上海・蘇州)・第二次(武漢)訪中団

日中経済交流研究会 会長 樋爪 伸二

30年近く続けている訪中団、今年度初めて年二回の訪中視察を実施しました。

## 第一次…9月12日～16日(4泊5日)

上海で開催されてる「日中ものづくり商談会」に日程を合わせ我々同友会の仲間が出展されてる様子を見学。展示会場では毎年出展されてるベテラン会員、数社にてワンブースを共同活用されてる初参加会員等、同友会だからこそできる有効利用をこの目で見ることができ、だれでも簡単に出品できることを確認できたことは非常に参考になりました。

夕食は大阪府政府上海事務所メンバーの方々との同席にて意見交換をし、次年度に向けて府・市の更なる協力を要請しました。

蘇州では当社の蘇州タカラを見学し、毎年変化する工場設備、生産主力製品、日本・中国との販売比率、今後の戦略・方針、などを見て参考にいただきました。

## 第二次…11月2日～6日(4泊5日)

中国大陸の中心位置にある武漢へ、内陸初の視察。

初日は日曜日のため、三国志の「赤壁の戦い」で有名な赤壁を観光。現場は膨大な敷地で完全に観光化され、英語・韓国語・日本語など数カ国語の看板があがっている。また土産売り場や食堂等の店舗はたくさんあるもののほとんどのシャッターが閉まっていて、我々以外に客はほとんどいない。あまりにも広いので馬車を2台貸切での移動。

あくる日は大学を視察。武漢市の一角には82校の大学が集中していてその中の一流と三流の2校を見学する。一流・三流の評価は各校教授の談であり学生も自覚している。

一流の華中科技大学日本語学科では日本語での授業を見学。

「日本語学科の学生は去年は70人を受け入れたが今年は40人だけです。理由は昨年の問題があったから」と学部長からは言葉を濁して説明していただいた。こんなところにも政治の影響が現れていた。学生に学校内を案内してもらうが何故か毛沢東の大きな石像の前で我々だけの写真を撮らされる。大学の敷地内にはスーパー・銀行・病院があり約7万人が暮らしている。日本であれば小さな一つの市に匹敵する。

三流大学の華中科技大学文華学院日本語学科では客と店員との設定でロールプレイング形式の授業を見学。先ほどの一流大学生とは違って生き生きしているように感じられた。昼食には15人ほどの学生と先生を招待し日本語だけの会話で和やかに楽しく意見交換をしました。会話のなかで「折角の機会だから我々経営者が臨時講師をしましょうか」と言うと「エエ本当ですか、ぜひお願いします」との即答が返ってきて内心ビックリ。昼食後、発言責任を取って昼からの工場見学を抜けて大学に戻り即90分の講義を即興でおこなった。学生たちにとっては、初めて触れる日本人、そしてネイティブな日本語です。学生は真剣な眼差しで私を見つめ一言一言に耳を傾けていました。講義では、今学生時代に何をすべきか、日本人と中国人の違い、社会人とは、などを例題を挙げて白版に漢字を書きわかりやすく話しました。ほとんどの学生は、湖北省から出たことがなく大きな刺激になったことでしょう。

## 質問タイムでは

私はこの三流大学を卒業しても就職はできますか？

一流大学の卒業生には勝つことはできないのですか？

頑張らなければならないのはわかりますが疲れませんか？

等と本当に素直で正直で素朴な子ばかりであり「この子達のために何かをしなければ」と真剣に考えさせられました。講義を受けた100人の学生と先生方は日本ファンになってくれたことは間違いありません。

今回の貴重な体験を今回で終わらせることなく、なんとか継続していけば日中文化交流の一助となり社会貢献ができるはず。毎年このような活動を地道にしていけば、数年後にはたくさんの素晴らしい日本ファンの卒業生が生まれ少しでも日中の架け橋となってくれば、と素晴らしい夢を追いかけてみたいものです。我々経営者には社会貢献という宿命があるのではないだろうか。

第二次訪中団では従来のビジネスとは別に、考えさせられることが多々あり大きな課題が見つかった素晴らしい視察旅行ができました

ありがとうございました

# 2013第1次訪中団 感想

アベル株式会社 居相 浩介

訪中団には2年前、義烏・蘇州・上海への訪中団に初めて参加しました。昨年は蘇州で夕食だけ合流したので、今回実質2回目の参加となりました。私は9/11～12に上海マートで開催された「日中ものづくり商談会」への出展を行ったので、先発隊として一足早く上海に入りました。ものづくり商談会というだけあって、製造業が多いと思っていましたが、現地進出後のサービス業、銀行なども多く出展していました。すでに中国進出を果たしている日系企業や日本の会社と取引を行っている現地企業が多く、これから進出を考えている企業には心強い限りだと思いました。蘇州ではタカラ産業さんを見学させていただいた後、蘇州の景勝地を巡る充実した視察を行うことができました。

今回は最終日に、思い切って商談会で出会った昆山の中国ローカル企業に別行動で訪問してきました。単独行動の不安はありましたが、いざとなれば訪中団に助けを求めれば何とかかなと言いついて聞かせ、行ってきました。当社と同じ表面処理の会社ですが、まだまだローテクで、日本の技術を勉強したいという姿勢の社長でした。無事会社訪問はできたものの、その後が大変。上海浦東空港で合流したのに、大型台風の影響で大阪行きの飛行機が欠航になり、もう一泊延泊することになりました。翌日小松空港経由で帰ることになるとはそのときは想像もしていませんでした。

とんだ(飛ばない?)ハプニングの後に家路についた喜びは未だに忘れられません。ああやっぱり日本が一番。

.....

## 2013年度 訪中団in上海、蘇州

大山印刷株式会社 大山 武久

2009年11月に初めて蘇州を訪問してから1400日以上の日が経過しました。中国でのビジネスにおいて成果を出したいと考えていた1000日ははるかに越えてしまった。焦りが無いといえは嘘になる。

「3～4日の訪問で何ができるのか?」「やるなら中国で死ぬ覚悟があるのか!その前に言葉と食事はどうなんや」数多くの叱責を受けながら訪中のたびに何らかのミッションを持ちこまできました。食事については苦手意識は残りつつも、何とか満腹感を味わえるようになりました。ローカルの食堂で人ごみにまぎれてオーダーすることは至難の業ではありますが、屋台で朝食をすませることはできるようになりました。一つずつこなしていくたびに、心が解放されていく感じを覚えます。言葉は耳が全く聞こえませんが、ただ、息子からくる微信の中国語と格闘しながら過ごしています。死ぬ覚悟は…

国内の状況の変化の中、中国に生産の現場を求めるというイメージはしぼんでしまいました。かといって、中国を市場として考え販売・資金回収することは、中国人のたくましさしたたかさの前に吹き飛ばされています。八方ふさがりの感があふれています。ただ、そのなかで考え着くところは、一人では吹き飛ばされるけれども、仲間が集まり社員が一丸となり家族が協力するということが、唯一の突破口だということです。その力を結集して「日本人」であると同時に「アジア人」なんだという子どものころに思った理想を持ち続けていきたいと思います。

日本語検定1級の合格に向けての勉強しているカラオケの小姐。中国人のたくましさしたたかさの象徴かもしれない。中国という国は嫌いだけど、自己実現のために努力している中国人は好きだという矛盾を再確認する訪中団になりました。

# 上海～蘇州、訪中団に参加して

三恵ハイプレジジョン株式会社 落合 良寛

今回の訪中団には、上海で開催中の「日中ものづくり商談会」に出展しているため、上海で団と途中合流になりました。5年前からFNAの主催するこの商談会には、毎年参加しています。年を重ねる度に規模は拡大し、5年前は事務机を商談スペースとしてのマッチングだったのが、今や展示会のブース形式と変化し、参加企業数も5倍ほどになっています。ものづくりにおける中国内の日系、ローカル企業の活性が肌身で感じる商談会です。今年は研究会メンバーも4社がブースを構え、そこに同友会の会員企業が加わり3ブースで6社の合同展示となり、気心のわかったもの同士の和気あいあいとしたブースとなりました。各社取扱う物も求める物も違いますが、それなりに中国企業と商談したみたいで、何らかの手ごたえを感じられたと思います

ます。夜は毎年恒例の大阪府上海事務所主催の懇親会でした。訪中団のメンバーや大阪府グローバル研究会の会員、商談会に参加された大阪企業の方々40名ほどで、意見交換や情報収集と中国語で多いに盛り上がりました。

商談会が終わり私用で離団しましたが、蘇州で再び訪中団と合流し火鍋の夕食となりました。訪中ミッションも5日目となると、初参加の方々もうちとけあい、終始笑い声の絶えない中、真剣な議論もされる宴会となりました。寝食を共にする訪中メンバーとは本音が語り合えるものだ、毎回感じます。また来年も必ず参加するぞという気持ちが湧いてくる訪中となりました。

## 2013年9月 日中経済交流研究会 訪中団に参加して

株式会社 ギャレークルー 合田 耕作

今回の訪中で、中国本土へは、4回目。訪中団では、3回目の参加になります。

今回の訪中団では先乗りして、展示会組へ加わったことで自由な時間もあり、様々な人と直接話をすることができました。中国にいる日本人、中国にいる欧米人、日本企業にいる中国人、中国企業にいる日本人、上海にいる上海以外の中国人、日本から中国に派遣されている中国人、中国にいる台湾人などなど、1週間の間に、それぞれ短い時間ではありましたが、たくさんの方と話をしたり聞いたりすることができました。そうすると、中国が以前よりも少しですが、立体的に見えてきたような気がしました。

中国にいる人にとっても同じかもしれませんが、日本にいると、マスコミを通してでしか中国を知る手段がありません。しかし、人間、実際に会って話をしてみないとわからないことがたくさんあります。

私の今回の訪中のテーマは、中国が市場として本当に魅力的な国なのかを感じとってくるということでした。答えは、「Yes」でした。中国は市場として、今も、そしてこれからも魅力的な国だと思いました。理由はいろいろありますが、一つは、中国の人々やマーケットはますます「いいもの」や「安心できるもの」そして「高機能・高品質なもの」を必要としてきています。そして富裕層のみならず、一般の人々も賃金や収益が上がることで、より安全で高価なものを求めるようになってきているということです。

安価だけれども安心できないものが、今の中国にはあふれ

ています。高価なものにも安心できないものもあります。しかし中国の人々は、今はそれらを選択するしかないのです。

日本の品質基準は、厳しすぎるという声を中国でもよく聴きます。しかし、それが当たり前になった時の中国を、どれほどの人が想像しているのでしょうか？一部の品質の厳しいものに関してはそうなるとは思ってはいても、何もかもがそうなるとは誰も思っていないように思います。

今は、そこがチャンスなのかなと思います。

人は、一度手に入れた利便性や安全は、なかなか手放せるものではありません。中国の人も同じだと思うのです。

中国には、世界の工場が集まっています。樋爪会長の蘇州タカラの工場でもそうであったように、中国国内市場向けの製品の部品調達に、国内の外国企業同士で資材を調達している企業も少なくないようです。これからはそれだけではありません。中国は世界中からモノを買い始めています。

製造業においては、FA(ファクトリーオートメーション)化も進むと予想されます。製造拠点を海外へ移す中国企業もますます増えてくるでしょう。かつての発展途上国は、どんどん消費地へと変わっています。中国だけでなく、アジア市場を通して世界全体を見わたしていく見識が必要なのだろうと、暴風が吹き荒れる博多の屋台で飲みながら考え、今回の訪中を終えました。

今回も、たくさんの人にお世話になり、またご迷惑もおかけしました。お礼とお詫びを申し上げたいと思います。ありがとうございました。

# 2013第1次訪中団に参加して

明星印刷株式会社 高橋 恵之

今回、上海では「日中ものづくり商談会」、蘇州では「タカラ産業」様の会社訪問は、前回(3年前の2010年の上海万博)の時同様、充実した訪中となりました。



まず上海の「日中ものづくり商談会」は、当初どちらかといえば日本の精密さを売りとする製造業メインと思っていたところ自治体やコンサルティング、ソフト開発などのソリューション関係が多く出展され、やはり何事も百聞は一見にしかず、それぞれの企業の特性が感じられ、大阪をはじめとする各都道府県の自治体のプレゼンテーションに、あらためて地域の良さを知ることができました。



2日目からの蘇州での「タカラ産業」様も2回目の訪問ですが、以前よりも益々社員さんたち全員が粛々と業務をされている姿が印象的で、対応していただいた役員様方の笑顔とともに蒸し暑さを忘れるひと時でした。

午後からは、交通渋滞で企業視察の時間が圧縮されたものの車窓から見る工事中のビルや、マンションの多さは、圧倒されるものがありました。

後半の2日間は、蘇州と上海の市街地を歩くことで視覚だけでなく味覚や嗅覚や触覚!?(笑)といった「五感」で感じられたもの良かったと思います。



最後になりましたが、今回の訪中団では参加されました皆様より、たくさんのご意見ご指導と感動をいただきました。ありがとうございました。また、樋爪団長様をはじめ訪中団スタッフの皆さま方、特に最後に台風でフライトや宿泊に対応して下さった幹事様、延泊組の皆さま、たいへんお世話になり、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。



# 日中経済交流研究会の訪中団(上海・蘇州)に参加して

株式会社インターフォワードシステムズ 中本 久美

今回の参加は4回目2年ぶりの参加です。前回から社員を同行させ、社員教育の一環に活用させていただいています。その件については他の参加経営者の皆さまから暖かく受け入れてくださり、同友会ならではだと感謝しています。

さて、その成果ですが次の通りです。

弊社の経営理念には世界の懸け橋になるという言葉があります。しかし仕事そのものは実際に外国に行くことはなく、輸出入される貨物の内容を見ることもほとんどありません。日常は書類を預かってそれを元に申告書類を作成して申告しています。そのため、懸け橋という理念は忘れがちになります。上海マートには同行できず残念でしたが、取引先企業の提携工場を見学させていただき外国での製造の現場を見せていただくことで、荷主さんの思いを汲み取ることができ、その思いに寄り添った手続きができるようになります。参加した社員からの感想もすっかりそのあたりのことが書かれています。毎年1~2名を同行させるのが精一杯ですが、今後も続けていきたいと考えています。

私自身は年に1~2度中国を訪問しています。最近は大

ムやタイ、ミャンマーにも行く機会がありました。中国に対してはもはや世界の工場から大きな市場ととらえた進出が増えてきているようです。

それを実感させていただいたのが、樋爪会長の蘇州工場でした。これまで毎回訪問させていただいておりましたが、製造されたものを全量日本に向けて輸出していると伺っておりました。今回は工場訪問の際に新たに中国国内向けが増えているということを説明していただきました。日本向けが減少せず、中国国内向けが増えた分、売上は増加しているということは素晴らしいことだと思います。じっとしていても何も始まらないとバスの中で聞いた言葉にうなずくしかありません。

台風の影響で一日遅れの帰国となってしまいましたが、終わってみればそれも笑える思い出となり、大変実りの多い訪中旅行でした。

幹事の皆さまに心から感謝申し上げますとともに、来年も訪中団の取組みが継続されることを期待しています。

## 中国 上海(上海市内、および蘇州)訪中団研修レポート

株式会社インターフォワードシステムズ 羽田 美佐子

### 9月12日 キヤノンクリエーション様の縫製工場訪問

大阪本社にていつも輸出通関を行なっている羽毛を、実際にダウンに作成している工程を見学。

ダウンの綿をつめる作業も着心地のいい均等な量と厚みにするため、手作業。縫製も非常に丁寧に行なわれていた。見学した工場では、縫製でのミスのパーセントは少ないらしい。通関の仕事上、評価の対象となる加工賃という項目を良く見るが、その項目の中にどれだけの人の手が関わっているのか、より理解が増したように思う。

キヤノンの方に今回工場見学の案内をしていただいたが、現場を訪問する重要性は、やはり高いとのことだった。商社の人間はどうしても費用に見合うだけしか現場に訪れないが、現場に直接行くことで、信頼の積み重ねの実績のほかにも、どれだけの緊急性があるかなど、伝わることは多いと思う。

私自身、お客様と接するのはメール上、電話上がほとんどなので、実際に訪問することで、よりお客様の事情を理解して改善することや、より円滑な関係を築くことにつながると思うので、今回はお客様の立場を理解する材料となる、貴重な機会を得られたことで、今後の業務に活かしていこうと思った。

### 9月13日蘇州タカラ様の工場見学

プラスチックの成形工場を見学した。

成形を行なうなかでも、2色成形が出来る工場は一握り、という話を伺った上で、2色成形がどういったものなのか、間近で見ることができた。

日ごろ、アパレルや雑貨に関する貨物の資料を見る機会が多い中で、今回のような「THE 工場」といった工場を見学することが非常に目新しく感じた。

印象が深かったのは、2色成形の他に、金型自体の国内外部発注も行なっており、工場内には金型が一室を占めていた部屋もあること。金型を日本等で作るよりもコストダウンになっているようで、今は日本で金型生産をして中国に持ち込む、といったことはほぼなくなっている、とのことだった。金型の国内発注が多くなっている中で、そのノウハウが築かれるうち、製品以外にも、ヨーロッパ方面から金型自体の依頼も少しずつ増えている、ということを知った。製品自体から派生する事業、ということの自分の会社に置き換えるのは難しいが、ノウハウを築く中で、派生したビジネスに対応していけるような発展を自分自身、遂げていきたいと思った。

# 蘇州タカラ産業、ダンボール工場見学

株式会社インターフォワードシステムズ 廣田 陽子

## 蘇州タカラ産業工場見学

同友会の樋爪会長さんの会社である蘇州タカラ産業の工場を見学しました。

プラスチック製品の工場なのですが今一番ホットな製品ということで車用の部品の射出工程を見せていただきました。

一見、黒とベージュのツートンカラーの枠みたいなもの(黒地の外側がベージュ)なのですが、これを部品として取り付け、熱を加えるとベージュが膨張して接着するそうです。

各自動車ごとに形が違って、それを2色成形機という機械を使って作っていました。この2色成形機を持っている会社は少ないそうです。

機械は成形課という部署でコントロールされていて機械の前に従業員の方が居て、機械から吐き出されてきた部品を枠からはずす作業をしていました。

また、プラスチック製品の検品風景も見学しました。ひとつひとつ目で見てチェック、仕分けされ梱包されていました。

## ダンボールおよび金属部品の工場見学

ダンボール箱と金属部品を作っている工場を見学しました。

ダンボールの切断など機械でしているのですが、割と旧式な機械で足でペダルを踏んでリズミカルに動かしていてわんこそば方式にダンボールを投入していく方法でタイミングが一瞬でも狂ったら手をはさんでしまいそうで見ていて少し怖かったです。

ここで作られている金属部品は蘇州タカラさんに納品され、プラスチックと金属からなる部品になるそうです。

その後、ダイキャストの工場に行く予定でしたが、道路事情で中止になりました。

## 【感想】

今回実際にものづくりの現場を見させていただき、機械に頼る部分は頼っても、最終的にはやはり人の力だと思いました。

各工場の従業員の方々が納期を守るべく、迅速かつ丁寧につくってくれた商品を通関の時点で止めることのないよう精進していかないといけないと改めて思いました。普段の観光旅行では見ることのできない現場を見ることができましたし、蘇州や上海の観光もさせていただき、今回はとてもよい経験をさせていただきました。心より御礼申し上げます。

# 2013年度 訪中団感想

瑞穂産業株式会社 水本 雅博

今回の訪中団は、上海、蘇州と定点観測的な訪中団、と新しい場所である武漢との初の年2回訪中団を行いました。自分はその内の1回、上海、蘇州の方だけの参加となりました。いつもと同じ場所と言うこともあり、軽い気持ちで参加しました。

上海での展示会も何回目かでしたが、今年は日本でニュース等を見ていましたので、出展される人も入場者も減っていると思っていましたが、いつもと同じか、それ以上の参加者に驚きました。まさしく、政治と経済の違いを見た思いでした。

そして、蘇州タカラさんを訪問させていただき、いろいろな人にお話を聞かせていただき、驚きました。それは、今年、新しい倉庫棟が完成し、材料置き場に温度管理システムが導入されており、品質管理レベルが国内と遜色ない形になっており、ます

ます、コスト競争力がついてきているのを痛感しました。そして、最近、大阪では、あまり聞かない、毎年、増産で設備も増えているとのことでした。それは、お客さんが、日本の企業だけでなく、ヨーロッパの企業等、大陸のお客さんとも直接取引をしているからでした。これは、中小企業が本当にグローバル化をしている姿だと思いました。これにより、日本の会社も海外の企業の情報が入り、今後の会社の発展につながるのだと感じました。

いつもと同じ場所に行ったのに、毎回いつもと違う発見がある訪中団でした。それと、今回は台風でえらい目に合い、中々出来ない(もう、したくない)経験もさせていただきました。

# 訪中団 感想文

株式会社ナニワ製作所 馬場 順一郎

今年度は9月と11月に訪中団がありました。どちらの訪中団においても、初めての経験がありとても有意義な訪中団となりました。

## 1. 9月訪中団(上海、蘇州)

上海の展示会(日系企業を対象とした)に有志と一緒に出展を行いました。ブースに来られる方は、中国ローカル企業の若い社長が多く、ほとんどの方が自社の売り込みに来られていました。自社の業界と違うものでもとても熱心に売り込みをされており(言葉が通じなくても)、これが今の中国の活気に繋がっているのだと実感できました。ただ、中国からの購入だけでなく、金属加工でも難易度の高い物であればまだ、売り込みは可能だと再確認いたしました。

最終日には、台風の影響で飛行機が飛ばずに浦東空港近くの田舎町に泊まることができました。こんなことが無いと来ることがない場所で、とても安い料理に舌鼓を打ち、地元のスーパーで買い物をしました。また、翌日の朝便で小松空港に到着したものの、大阪に帰る電車が無く、北陸の美味しい寿司をゆっくりと食べながら、日本に帰ってきたと実感しました。こんなハプニングに巻き込まれましたが、普段ではできないことを体験できて、今ではとても楽しい思い出です。

## 2. 11月訪中団(武漢)

中国内陸部の武漢市へ初めて訪中団が行きました。5年ほど前の沿海部(上海近郊)に来ているような感じを受けました。内陸部と言っても人口は、1千万人以上。日系や仏系の自動車会社が進出してきており、まだまだこれからの発展が期待できると感じました。街には外国人も少なく、訪れた大学(これも訪中団初)の日本語学科の学生たちも先生以外の日本人と喋るのは初めてとのことでした。

授業風景を見た後の食事会には先生と学生も参加して、生徒たちが少し緊張した面持ちで話しているのがとても印象に残っています。また、学生たちは「仕事」や「就職」等について、訪中団のメンバーに色々な質問を投げかけていました。

武漢から70kmほど離れた場所にある日系企業を訪問した時に、沿岸部ほどではないが作業者の募集と、離職を抑えるのに苦労されているとのことでした。武漢から募集すれば人員は確保できるが、コストの上昇につながる(この土地より武漢の人的費用が高いため)ので痛し痒しとのこと。

今年は、2回訪中団に参加しましたが、行くたびに新しい経験ができました。また、中国は行く場所によりいろいろな歴史、文化、考え方があると武漢を訪れて実感しました。また、今回初めて行った大学訪問は、今後も定期的に続けていき、民間レベルでの交流になればと思いました。

最後に、11月訪中団でお世話になりました株式会社シスプロ様、9月、11月の訪中団でお世話になり

ました、大阪府政府上海事務所様には、この場を借りて御礼を申し上げます。



# 日中経済交流研究会2013年9月 訪中団として上海と蘇州を参加しての感想

有限会社三喜製作所 三宅 喜夫

この会のおかげで、今回初めて中国に行く機会ができありがとうございました。

今年の春までは、まったく中国に行く予定がありませんでした。合田さんからの誘いと馬場さんのご協力で参加を決めました。中国の経済については、何もわからない状態でしたので、一度どのような感じなのか、知っておく必要があるとの思いもありました。行って感じたことは、友好的な方が多く、とにかく前向きでフットワークのある方が目立ちました。

参加するにあたりありがたかったのは、日中ものづくり商談会に日程を合わせていただいていることと、この会のメンバーが多数出展されていることでした。上海の展示会に出展することで現地の状況や環境などが身近に聞くことができ、いろいろ学ぶことができました。馬場さんのお声掛けで大阪府上海事務所の中本副所長が事前に来社していただき商談会の内容や大阪府の取り組みを伺えたことや趙さんが一緒に参加してくださるので通訳の問題も解消しました。

初日は、ナニワ製作所様の展示スペースを間借りしてのブースの設営です。翌日から2日間は、日中ものづくり商談会で日系企業とつながりができればありがたいとの思いで出展しました。

知り合いの皆様が周囲にいらっしやるだけで非常に心強く営業活動ができました。

売りたい物と買いたい物が各ブース明確で多くの売り込みも盛んで大陸的なバイタリティを感じました。今回は、商談まで結びつきませんでした。多くの発見と気づきをいただきました。

自社の少ない強みを徹底的にアピールする小規模企業の原点も学びました。

中国で成功されている日系企業は、あの逆境の連続でも事業が成り立っているのには驚きです。

4日目以降は、訪中団の方々と行動を共にして樋爪会長から中国の生情報を伺ってから蘇州タカラ産業さんと下請け会社を訪問しました。事前にタカラ産業富山工場を見学させてもらっているので関連性も見えて非常にわかりやすかったです。下請け会社では、仕事内容に合わせて会社の業務内容を小刻みに変化させているようで、対応力の良さを感じることができました。

また、連日熱心な経営者の方々と親睦会ができたことは非常によい勉強になりました。

新しく作られた都心と変化前の周辺地域の生活環境や習慣の違いを比較ができたのもためになりました。一般の方が住む下町では、早朝に多くの女性が太極拳を様々な型で修業されていて私の思っている中国のイメージでこれらを見ることができ感動しました。

最終日は、台風18号が日本に上陸した日になんとか小松空港に帰国したのですが、大混乱の交通事情の中での北陸から帰宅は、印象に残りました。この会に参加して中国の日系企業は、人件費や様々な規制でより一層の困難が予想されます。その日系企業にどのようにすれば役に立つかは未定ですが、まずは、最初の一步が始まった貴重な訪中でした。

最後にツアーの企画や準備そして、案内をしていただいた方々に感謝と御礼を申し上げます。

本当にありがとうございました。



## 2013年 訪中団(武漢)に参加して

田中商事株式会社 尾崎 俊哉

日中経済交流研究会に入会し、2回目の訪中になりました。今回の訪中、訪中団はかの有名な湖北省武漢市と赤壁でした。

私は三国志に大変興味があり、DVDや本を鑑賞拝読していたため、自分なりの赤壁のイメージは、壮大美形未知の中国でした。しかし、イメージとは大きく違い、三国志の長江は茶色の水、赤壁はペンキの赤色で【赤壁】とかかれ又、戦場跡はテーマパークになっていました。思い込みは駄目だと感じながらも約1800年前の歴史に感動しました。

ホテルにチェックイン後、私は持参したiPadで情報を確認しました、多くの日本人コメントが私が見た赤壁の評価をしていました。私はインターネットで事前に調べるべきだと私なりに反省しましたが、でも【三国志・赤壁(レッドクリフ)】に興味のある方はず、事前に情報収集してから観光をしていただきたいです。時間に限りがないければ、事前に情報を頭に入れて行けばまったく違う見解で観光できたはずです。

今回は中国の大学に参観・先生と生徒の交流がありました。中国優秀ベスト10に入る大学と中国人自信が自ら述べた三流大学にいきました。

【华中科技大学】はこの大学に関係ある人民は約8万人で学生は約4.5万人と先生に言われびっくりしました。大学構内には幼稚園～大学、病院、銀行、スーパーまでがありひとつの町でした。【華中科義大学文華学院】設立約10年で先生・生徒が自ら三流大学と話したことに驚きました。両校共生徒は勉強熱心でしたが、就職危機の大きな不安を感じていたように私は感じました。両校とも私たち【日中経済交流研究会】訪中団として企業の経営者が訪問し授業を見学・交流したことはなく初めての経験ですと感謝されました。しかしこれで驚いてはいけません急遽2名が予定を変更し大学への特別講演授業をすることになりました。樋爪会長・豊田幹事でした。なんとも言えない感無量の出来事でした。中国人学生の就職不安の問題に日中問題はとは全く関係なく経営者、人としての講義をする行動に敬服しかありませんでした。内容は、録画もされていなかったとのことでしたが、日本語後専攻生徒全員約120名以上45分授業を2時限されました。

お二人とも多くは語ってくれませんでした、【日中経済交流会】の大きな志と訪中団の行動に歓喜にあふれました。

中国の大学は入学後軍事訓練を行うとのこと、これまたビックリでしたが帰国後ネットで調べましたが中国では当然な制度で、又高校も軍事訓練をする学校もあるそうです。

中国湖北省日本進出企業について、3社訪問をしました、内2社は【ティア1】でした。両社の現地日本人に素朴な質問をさせて頂きました。年に何回ぐらい帰国されるのですか、数ヶ月に1度は帰国できますが、実際は年に1回ぐらいですとの回答でした。世界の自動車メーカーは中国を世界の工場から既に世界の市場にと大きく狙いを変え、熾烈な戦いが始まっています。1社は約100人の工場に日本人が5人、もう1社は約200人に8人が日本人でした。日本人1人が中国人約25人を管理しなければいけない構成になっていました。そして両社とも24時間体制生産工場です。部品の約50%～60%は日本からの輸入品で、残りは現地調達をしているとのこと。しかし数年で略現地調達できるとのことでした。技術力・精密部品の日本は数年後どうなるのでしょうか考えてしまいました。

まだまだ感想は多くありますが、今回訪れた湖北省武漢市では私が今まで行ったことのない中国でした。武漢市内を散策しましたが北京・上海とは違い中国人の勧誘には一切会わなかったことや私達日本人が歩いていてもなんの違和感もなく散歩できました。沿岸部と内陸部とではこんなに大きな違いがあったことにも驚きました。しかし武漢市も数年後には大きく映り変わると感じました。



# 同友会日中経済交流会研究会訪中感想文

株式会社熱気球 許 媛

11月2日～6日、私たち同友会メンバー全13名が4泊5日間で中国内陸の武漢市へ考察に行っていました。中国人の私は恥ずかしいですが、内陸初めてでした。行く前に武漢市って田舎ではないかと思っていました、行って見てびっくりしました。

武漢市は湖北省の東部に位置しており、湖北省の省都でもあります。総面積は8494平方キロメートルで、人口は1020万人ぐらいいます。武漢市は水に覆われている面積は全市総面積の四分の一を占め、広々と感じました。大武漢のイメージを実感しました。

武漢は主に自動車、鋼鉄、機械、高技術の産業を盛んでいる。特に日産が投資している東風汽車有限公司(「東風汽車有限公司」は2003年に合併でできた会社です。「日産自動車」と中国の国営企業「東風汽車公司」が各々50%の出資をしています。)が有名です。東から吹いてきた風は武漢人民に幸運をもたらしてくるため、名前は東風に付けられました。

今武漢常住の日本企業はだいたい百三十社、日本人は680人ぐらいしかいないです。

日本企業の数と駐在の人数は上海と比べることができませんが、都市規模は上海並です。

武漢市は中国有数の大学都市でもあります。教育にとっても力を入れています。

今回は初めて华中科技大学文華学院などの教育現場も参観させていただきました、一生懸命に勉強されている学生たちの姿が強く印象に残りました。特に宮地さんという可愛い日本人の先生にすごく印象でした。先生の全身全霊の姿に深く感動しました。昨年9月から魚釣り島の件で日中関係はややくしく

なっていますが、宮地先生のような方々が多くいれば、草の根の交流できっといつかは問題が解決できると信じております。なお、言葉の上達はまさしく勉強の積み重ねですね。また、学院の広さも驚きました。銀行、小学校、スーパーマーケットなどあり、学生と職員を含めて20万人もいると聞かされました。まるで日本という市町村自治体みたいです。

武漢は古い歴史と輝かしい文化を持つ都市、今回三国志で有名の赤壁と古来天下第一楼と呼ばれている黄鶴楼も観光でき、武漢の陸水湖の観光も楽しみました。たくさん武漢新鮮の野菜をいただきました、有名の武漢熱干麵も美味しかったです。驚くおっしゃれな店もたくさんありました。自分の祖国の発展に誇りを強く持つようにもう一度認識させていただきました。

今回武漢希思普諾信息科技有限公司はじめ、华中科技大学外国語学院、地元ローカル会社東橙科技有限公司、孝感国家高新区招商局など8社の企業や学校などを訪問させて頂きました。いままでなかった体験もさせて頂きまして、本当に有意義な考察旅行でした。

また、言うまでもございませんが、同友会のみなさんを安全・楽しい・有意義なご旅行とされますことはわたくしの至上の責務であります。この場を借りて、みなさんからの暖かいご協力・ご支援を心より感謝申し上げます。

皆さんのお蔭様でございます。ありがとうございました!



# 11/2-11/6 武漢視察報告

アジアプランニング株式会社 近藤 淳

本報告では大阪の中小企業から見た、生産拠点或いは市場としての武漢地域の位置づけについて

大まかな紹介を試みる。また同時に現在、武漢地域で進行しつつある経済活動が、大阪の中小企業に与える影響についても、同友会各社の参考の為に僭越ながら私見を付言する。(尚、個別訪問先での事案については、興味深いものではあったが、紙幅の関係からこれを割愛した。)

## 1. 武漢の立地と概要

湖北省の省都-武漢は、中国大陸の中央に位置する。都市GDPでは十位前後に数えられる大都市だ。内陸地ではあるが、揚子江の海運・高速鉄道・航空路線・高速鉄道網を通じて、上海・北京・広州と繋がる陸の要所である。歴史的にも辛亥革命の成立都市・国民党(中華民国)政権の首都が置かれるなど地勢学的にも重要な都市として知られている。

武漢は学府である。域内には大学・高等研究機関が多く配置され、人口比に対する大学生の数が中国で最も高いと言われ、多くの人材を省内外に供給している。

重工業としては、武漢製鉄所が有名で、上海の宝山製鉄大連の鞍山鋼鉄と並び称される巨大製鋼所である。近年では、日本や仏国との合弁で自動車メーカーが設立された。東風ホンダ・東風日産・東風シトロエン等がそれぞれの支援企業と共にクラスターを展開している。

## 2. 大阪の中小企業から見た武漢の強みと弱みについて

まず強みとなる点について述べよう。大学等の高等教育機関が多く、人材の確保は先行する上海・広州に比べ比較的容易であると推察できる。広州等に比べ労働争議等の発生が少ない。また反日運動も強くは見られないと訪問各社からからの声が聞かれる。

付近には、自動車産業の集積が厚みを増しつつあり、中国国内各地から日系企業(自動車一次・二次請け)が分工場を設立し、日本人が増える可能性がある(現在、在留邦人は600名程度とされる)。私見ながら繁華街は賑わいがある。大学の街らしく若年者が多い。街には中国・台湾・香港のブランド衣類が軒を連ねファッションに敏感であると感じた。

大阪-武漢間の海上輸送に時間と費用がかかることは大きな弱点である。コンテナ船は揚子江を通過できるが、上海港での積み換えとなるので物流の安定性に不安を残す。(大阪への)海上輸送料は、沿岸諸都市よりも2倍以上割高と思われる。航空路線も現状は関西-武漢の直行便は運行されていない。内陸地にあるために、日本および外国との単純貿易取引

には不向きである。目下、日本食材店・日本食レストランも日本人が受け入れられるレベルは少ないと聞かれる。

## 3. 大阪の中小企業から見た武漢の機会および脅威について

武漢が華中の中心都市であることは間違いない。地産地消型企業・知的集約型企業には、好立地条件を備えているように見える。日本企業が少ないことはあらゆる分野において、先行者が先駆者利益を享受できる可能性は否定できない。

しかし内陸地にある以上、進出企業は、その生産やサービスの取引の場は、中国国内に置くことになるだろう。この種の取引構造は、現地を中心に波及するものであり、利益の送金でしか国外経済に寄与しない。そのような状態は、より一層、地場大阪の産業の空洞化を早める危険性に繋がるとも考えられる。

## 感想-まとめとして

大阪の中小企業にとって、これまで「国際化」とは多くの場合、中国との取引を意味し、その形態の大半が安価な中国製品の輸入、または労働力の安い中国での、生産とその製品の日本への持ち帰りを意味していたのではないだろうか。大阪の中小企業はそれらの半製品・部品を日本国内で販売することで成長を続けてきた。しかしこのような成長モデルは、日本の少子高齢化による市場の収縮・中小企業の顧客であった最終ユーザーのグローバル展開・グローバル調達を原因として終焉を迎えつつある。

武漢では日系自動車メーカーがすでに、中国進出済みの部品メーカー(日系・中国系・外国系を含む)と、ワンパッケージ型の産業集積を形成しつつ有ることを感じた。そこにはこれまで沿海諸省で見られた大阪の中小企業の影はない。大阪の中小企業は、国内では自動車・家電と言った大きな顧客の不在の中で進路を考える大きな転機を迎えようとしている。

一方、ソフト面・サービス産業にはそれでも日本国内で鍛え抜かれた競争力が潜在している。武漢内での設計や開発と言った知的業務、或いは、益々ファッション性や新嗜好を求める武漢のマーケットを目指して、これまでの製造業でなく、ショップやレストランといったサービス産業が進出する役割は大きい。武漢市内にも日系のケーキ屋さんが出店しているときいた、「安全性」や「おもてなし」と言った

日本の良いイメージを押し出すことは大阪の中小企業の武漢進出を考える上で、大きな後押しとなると感じた。

末筆ながら、素晴らしい体験をご用意いただいた、樋爪会長・幹事・事務局の方々、快く新参者を受け入れて頂いた団員の皆様に心より御礼を申し上げます。

# 2013 訪中団in武漢 レポート

株式会社豊田製作所 豊田 浩二

例年と違い今回の訪中団は内陸部視察という初ミッション。  
今回の視察の主たる目的は以下の3項目

- ①沿岸部と内陸部の違い
- ②大学の日本語学科訪問
- ③大学生とのディスカッション

①武漢市は現在中国6番目の都市で人口は約1000万人。湖北省の人口約5800万人の16%を占める。北京、上海、広州、成都どの都市からもほぼ同じ距離にあり長江が横断しているということもあって昔から長江を利用し交易都市として発展している。しかし都市自体は発展しているものの上  
海・北京などと比べると国際的發展という意味では10年以上遅れているように感じた。他の主要都市と比べると極端に外国人が少なく訪問中、街中に日本語の看板を見かけることはほとんどなかった。町の人々も外国人慣れしていないように感じ、何より道路上に残飯やゴミを捨てるという一昔前の中国のままである。

駐在外国人国籍 1位：フランス人 約750人  
2位：日本人 約650人  
3位：韓国人 約500人

ビジネスに関していうと若者が多く消費意欲は高く需要はあり市内向け、大陸向けのビジネスでは魅力的ではあるが日本に持って帰るには内陸部ということでタイムラグが数日あり人件費が上海の1/3ということを差し引いても現状ではメリットを感じることはできないと思う。

②武漢市には国内ベスト10に入る華中科技大学など約80の大学が誘致されている。市の人口の約20%が20代の若者ということで①でも書いたように消費は盛んでパワーにあふれている。

今回訪問した日本語学科の学生は入学後勝手に振り分けられ日本語学科に入った子もいれば、日本のアニメが好きで志願した子もさまざまだが一応に日本語の語学力は素晴らしく勤勉であった。

③今回訪問した2校は

A校：一流校「華中科技大学」、B校：三流校「華中科技大学文華学院」(学校評価はどちらも当該校教員談)

A校では入学3か月の1年生の授業見学(日本語での学校紹介)、3年生による校内案内。さすがに3年生にもなると普通にコミュニケーションが取れ本物の日本人と会話するのが楽しいようで目を輝かせて、いろいろな質問や悩みを団参加者と話していた。

B校では2年生(友人とのコミュニケーション)、3年生(客とお客様担当のクレームの対応を、感情を交えて話す)を見学後、教師、学生との昼食懇談会を行った。こちらは生徒自身が三流校というコンプレックスを一応に持っており日本人と話すのが初めてで緊張のなか素朴な疑問や質問で盛り上がっていた。

どちらの学生も就職に不安を持っており日本企業に就職を希望している生徒が多かった。特にB校では三流校のコンプレックスで危機感が多いように感じた。

その後、今回の訪中の予定にはなかった臨時講義をB校で行うことになり当研究会会長が講師になり、日本人と中国人の違い、文化の違い、日中の企業の違い、日本企業に就職するにはどのような頑張りが必要か。などが行われ、さらに深い質疑応答があった。どの質問も素朴で素直な気持ちが表れ学生たちにとっていい経験になったと思う。



今回の訪中団は予定外の臨時講義などもあり今までとは違う訪中団になったのではないかと思います。今までのように、企業間の交流もいいがこれからの日中関係を担う学生とのコミュニケーションをとっていくことでお互いwin:winの関係を築いていけるのではないかと感じた。

# 訪中団(武漢)に参加して

川本工業株式会社 中野 幹生

## 1. 内陸部の現状

武漢の名前を聞いたとき、私は沿岸部の上海と(内陸部にある)南京との差を思い浮かべて、「実際にはそれほど違いはないだろう」と考えていました。現地に着いて、それがまったくの勘違いだったと気付かされました。情報化社会とはいえ、1,000キロの距離は想像以上に大きなものであります。



中国の他の大都市と同様、武漢の郊外にも新市街や新しいビルの建設ラッシュが見られます。政策的な理由から、それは沿岸部よりも活況を呈しているようにも思えました。しかし、明らかに違うのは、旧市街地や郊外の街並みのそこかしこに、「古い中国

がまだまだ多く残っていることでした。日本の高度成長期、改革開放初期の中国に存在したであろう『風情』や『人の営み』が感じられるのです。

武漢は上海の西方1,000キロ、広州の北方1,000キロ、広大な華中平原のと真ん中にある人口1,100万人の巨大都市です(東京都の人口が1,300万人)。省都である湖北省の総人口は5,700万人。域内GDPは依然11%以上の驚異的な伸び率を維持し続けています。

高速鉄道と高速道路網が発達した現在、上海～重慶の東西ライン、北京～広州の南北ラインのちょうど中間点にあたり、武漢は中国内陸部の物流拠点として目下最大の関心を集めています。そのため沿岸部から外資系企業の進出が活発化しており、とりわけ年間1,000万台の新車販売数に達する自動車産業においては、数年以内に一大生産拠点となるようです。

繁華街の歩行者天国には多くのバザーが並んでいて、平日の夜というのに大勢の若者が生き生きとした目で商品を眺めています。物欲を失って久しい日本人の姿と比べると、可処分所

得の伸びがそのまま購買行動に直結するような膨大なエネルギーを感じるのです。

## 2. 稲作文明に培われた風土

華中平原は7,000～8,000年前に起こった揚子江文明の中心地。ジャポニカ米(日本米)の起源は、このあたりにあるとされています。人や風景が懐かしく感じられるのはそのせいかもしれません。郊外の山野に生えている植物も、ほぼ日本の本州と変わりません。

武漢で一番驚いたことは、街を行く人たちの立居振る舞いです。歩き方も話し方もゆったりとしているのです。顔立ちも日本人にかなり近いので、不思議な落ち着きを感じます。

たとえば、私が街中で写真を撮っているときも、前を通るときにさりげなく頭を下げて気を配ったり、撮影が終わるまで立ち止まってくれたり、日本人が忘れ去った所作を持ち続けています。稲作地帯という風土が、そこに暮らす人たちの生活文化と性格の形成に影響を与えているのでしょう。

## 3. 教育の街

武漢は教育で名高いところで、中国2,300の大学のうちトップ10内の武漢大と華中科技大学の2校を筆頭に、市内に84もの大学が存在します。今回、私たちは華中科技大学の日本語学科を訪れました。広大な敷地内には 3万人の学生を含む8万人が暮らしており、もはや小さな都市のようです。



沿岸部と違って、学生たちは見るからに純朴そうです。

私たちが訪問したのは11月でしたが、一年生たちは流暢な日本語で学校紹介をしてくれました。

しかし驚いたことに、この秀才たちは9月入学のあと10月から

「あいうえお」の練習をはじめたばかりというではありませんか。わずか4~5週間の教育の成果とは思えない理解力に、13億人の頂点に立つエリートたちの一端を垣間見たような気がします。

しかし、学生たちの教育環境は決して恵まれていません。市の人口1,100万人に対して日本人はわずかに680人。上海が56,000人と言われますから、武漢市内には日本語表記はまったくありません。語学上達の秘訣は毎日の努力の積み重ねだけだということです。

四年生たちが学校を案内してくれましたが、そのころになると日本人よりも正確で流暢な日本語を使いこなします。学生たちにはもっと日本のことを好きになってもらって、外交や貿易といった平和的な国際関係を築いていく取り組みに関わってほしいと思います。

#### 4. 人材活用が成功の源

経済成長の真ただ中にあっても、中国の学生たちは深刻な就職難に悩んでいます。

トップレベルの日本語能力を有する学生たちですら、日本企業の進出が遅れていることから、その能力を生かせる求人が殆どないとのこと。

学校側も長らく国営企業へのエスカレータ式の就職が習慣化しており、外資系企業への就職ノウハウを持っていません。沿岸部と違って内陸部の貧しい地方出身の学生は、経済的な理由から簡単に留学したり大学院へ行ったりできない事情も響いているようです。

このことは、日中間の将来を考えると、大きな損失に思えます。彼らのような能力の高い学生たちの存在は、日系企業にとっても大きなチャンスだと思うのです。

今回の訪中団は、中国に初めて来たときのような驚きがありました。同友会で行く訪中団、これからも目が離せません。



# 訪中団感想文

福地金属株式会社 福地 守

今回の訪中団は中国内陸部の大都市(副省級市)人口1,020万人、面積は大阪府の約4.5倍の武漢である。大阪から直線で約2,000km、直行便が無いので上海経由で飛ぶ。湖が多いというのは地図で見てもわかるが、着陸前に武漢上空から見たとき川の氾濫で町が洪水に見舞われたのかと見間違えたほどである。ホテルは武漢一の繁華街にある帝盛酒店、大酒飲み放題みたいな名前である。

馬場さんが家に迎えに来てくれてから約12時間が過ぎていた。夕食後ホテルの周りを散策するが、人人人ゴミゴミ、若者やカップルあらゆる雑貨や食べ物の露店で歩くことは超困難。ゴミや食べカスの上にビニールシートを敷いてその上にバッグや雑貨が並べて売られている。雨がひどくなってきたのでおばちゃんが売る10元の傘を買う。何か気に入らないことがあったのか不機嫌な顔でお金を受け取る。この辺りが中国らしいところである。

あれだけゴミが一杯だったのに朝になると通りはきれいに清掃されている。いつの間にやったんだろう。雨はすっかり上がっているが空は見え、これが霞みなのかPM2.5なのか遠くもぼんやりかすんでいる。2日目は日曜日なので赤壁観光に行くことになる。大きな船が何十艘も行きかう長江の橋を越え1時間以上走っても市街地を抜けることはない。バスの中でいつの間にか眠ってしまい3時間ほどかかってようやく赤壁古戦場に到着する。国家AAA級旅遊景区と書いてある。トイレも大きく由緒正しい立派な建物に見えるが入ると大したことはない。水洗金具がどこに行ってもポロいしボタンをおすと水が飛んできてズボンにかかる。赤壁といえばあの三国志で有名な、歴史に疎い私でも知っている場所である。オープンしたばかりのAAA級の施設、一年で一番の行楽シーズンの日曜日ということだが中に入るとほとんど人はいない。入場料が高いせいもあるが全く宣伝されていないと聞いた。その後、湖に浮かぶ島めぐりの遊覧観光に行くがあまりの陳腐さに笑ってしまう。しかし、そこで出会った人たちは昨日の傘売りのおばちゃんよりは愛想のいい人ばかりだった。すっかりページを使ってしまい本来の報告の場所がなくなった。

中国の都市近郊の開発区はどこも規模が馬鹿でかい。ここ武漢でもこれから自動車300万台生産に向けて企業誘致と産業振興を進めている。プジョー、日産、本田などが進出している

ますます部品需要があり、日本からの進出を期待しているとのことだ。上海から船で3日かかる地だけに日本へモノを持って帰る商売には適さないらしい。中国で販売するならどこへも等距離だということだ。しかし、中小製造企業には材料の調達、人集め中国ローカルとのコスト競争など当社がここへ来て優位になれる地には感じなかった。すでに進出している大企業でも人材確保には苦勞していると聞いた。

今回のツアーのもう一つ目玉は中国大学生との合コンである。武漢には100以上の大学があり、100万人の学生がいるとか。今回出会った2大学の学生ともみんなまじめで擦れていないように見えた。ニュースで聞いていたように日本のアニメやジャニーズが好きで日本に興味があり日本に行きたいという子と話した。どうすれば日本で働けるか。学校のブランドや成績、持っている資格など力づくで企業に入ろうとしている。これは世界の現状なのか。私たち中小企業家が求める人材は資格や成績ではない。日々起こる予想外の問題に熱意と誠意をもって全社一丸チームワークで取り組む姿勢である。言葉や資格は夢実現のためのツールに過ぎないのである。日本にあこがれ日本語を一生懸命勉強している彼らには、将来日本に来て日本を理解してくれる中国人を一人でも増やしてくれることを祈る。それにしても言葉が通じるということは素晴らしい。お互いを知るにはやはり会話することが大切。私ももう少し英語や中国語が話せたらとまた思うのである。

中国三大楼の黄鶴楼へも行った。ここは国家AAAAA級とある。平日であるが国内観光客もバスで大勢来ていた。さすがAAAAA。色とりどりの服装で、NIKONやCANONのカメラを持ち100元以上する観光施設に大勢の国内旅行者。10時を過ぎても繁華街では若者たちがブランドのバッグや5万円以上するスマホを持って歩いている。十数年前に初めてに来た中国とはもうすっかり変わってGDPでも日本を抜いた。最後に入った武漢空港のトイレでもやっぱり水洗金具から水が飛び散りズボンにかかる。やっぱりまだまだやなあ。

今回いろいろな方にご迷惑をかけながら楽しく学びのある旅を終えることが出来ました。ありがとうございました。

# 平成25年度訪中報告 『武漢』

株式会社 リアルエステート大阪 代表取締役 若原 朋之

2010年の上海蘇州2012年の寧波。私にとって3度目の訪中団。仕事でも大連、上海、寧波という沿岸部ばかりでしたが、初めての内陸部武漢。

朝7:45に関空に集合し武漢のホテルに着いたのは18:00(中国時間)所要時間約12時間。

夕食までに時間があつたので街を探索。洗練された商業ビルと、よくある中国の古ビル古マンションが混在する街。中国の武漢にいるのか上海にいるのか、大連にいるのかわからない。街は私の知っている中国では大差がない。

しかし人が多い。いたるところで人があふれ、熱気、活気に満ちている。マッサージ店や物販店、飲食店。外国人観光客向けの看板は一切ない。内需だけでまかなえてしまう、中国の強さを改めて感じた。

## 2日目

映画レッドクリフの舞台赤壁見学。船が何艘も行きかい、全長6,300キロを流れる中国最大河“長江”雄大な歴史と広大な大陸の風景に感動しました

## 3日目、4日目

大学見学、学生と交流と中国の企業訪問。中国で7番目に優秀と言われている華中科技大学。大学の面積が私が住んでいる東成区とほぼ同じ4.4キロ平方メートル。学生数と大学従事者は東成区人口とほぼ同じ8万人。中国はスケールがいつも想像以上である。日本語学科の授業を見学させていただくとちょうどロールプレイング中でした。企業のクレーム処理担当とクレームをつけるお客様役。笑いあり、学びありで楽しく質の高い授業に驚きました。学生さんは皆“おぼこく”素朴で目をキラキラ輝かせながら将来は国で働いたり、通訳、貿易、起業など日本と関わる仕事につきたいとそれぞれ夢を語ってくれました。中国で7番目に優秀な大学それでも就職難があるようです。

その後の企業訪問で工場見学させていただいた際200人近いワーカーの方々が流れ作業で働いており平均年齢24歳上海に比べワーカーさんたちの給与は60%水準。30,000円～40,000円物価は上海の80%生活は厳しいものがある。貧富の差を目の当たりにすると目を輝かせていた学生さんたちの夢を叶える事ができる世の中にするべく経営せねばと責任を感じる。

## 今回の武漢で感じた事3点

武漢の人口は1,000万人日本人の数は680人0.0068%。上海の人口は2,300万人日本人の人口は56,000人0.24%。武漢の人は沿岸部に比べ外国人なれしていないところがあり私と話をした学生さんが日本人の男性と話をしたのは初めてですなんて言われ驚きました。

訪問企業の話で内陸部の人(ワーカー)は競争心が薄い、人間関係に波風はたたない、と言うか、波がない、なんてお話を聞いていると沿岸部に比べるとギラギラせず、温和で接しやすく素朴な人々の街である事。

日本で中国人の友人によく聞く2011年末で不動産は天井をつけ値段が下がっているという(沿岸部地域)武漢は未だ上がり続け天井ではないと地元の方は口を揃える。内陸部は発展めぐるしいいたるところで開発され、建築中地下鉄も1,000万人規模の都市で現在2線今後一年に1線、8路線増やしてゆく予定である。懸念されている中国バブル崩壊は中国は広い沿岸部のバブルがはじけても内陸部はまだまだ余力がある日本と同じバブル崩壊というような事にはならないのではないかと行って、見て、聞いて、感じる事ができた。

最後に日中経済交流研究会メンバーと4泊5日おおいに語り、笑いあい共に素晴らしい旅を心から楽しむ事ができました。感謝!!



# 中国内陸部の中核都市武漢を訪問して

有限会社天満合同会計 大塚 教進

長江の中流に位置する武漢は、中国政府が56の国家ハイテク産業開発区の中で最も重点的に強化している、成長著しい都市です。観光地としては、黄鶴楼、武漢長江大橋、東湖とロマンに溢れて、人々を感動させます。また、三国志の赤壁の戦いの舞台も近く、日本人にもなじみの深い地域です。

武漢の面積は、埼玉県、東京都、神奈川県を合わせた大きさで、人口は980万人、流動人口が少なく、離職率も低く治安も良い。市内には84の大学、120万人の学生が学ぶ大学の街として中国中に知られている。

現在は、シリコンバレー構想の先駆として、IT産業が急成長している。交通の要所として物流センターとしての機能も果たしている。自動車産業も盛んで、今は生産が70万台ではあるが、2016年には200万台を越し中国トップとなるそうだ。市内の交通網も急ピッチで整備されつつあり、近い将来地下鉄が8号線まで走る体制となっている。大学が多いこともあり、市内は活気にあふれ、日本語学科もあり人材の宝庫である。ただ、まだ発展の途上の部分もあり、メインストリートを外れると昔の中国もある。

私たちは、華中科技大学文華学院(日本語科)の授業参観をしました。学生たちの第一印象は、一人っ子政策の中で生まれた世代であるためか、自己中心的な雰囲気を感じたが、昼食を日本語でするとその印象は薄らいでいった。教師以外の日本人と接することが初めてという学生たちの目は、嬉しさに溢れキラキラと輝いていた。昼食の会話の中から、素朴さ素直さ真面目さが伝わってきた。

別れの際、樋爪会長のほうから、「昼から私の生の声で短時間でもいいから講義をしたい」と積極的に申し込むと、教師はすかさず「よろしくお願いします」と即興の講義の時間が設けられた。私は残念ながら、次の工場視察のスケジュールのため、この講義は聴くことができませんでしたが、その場に残った豊田さんの話では、100名近い学生の前で、会長は、「人の生き方」について90分にわたり、熱弁をふるわれたそうです。日中関係は政治的には難問を抱えています、こういった試みは、未来ある学生たちにいい刺激になったと思います。会長の提案もさることながら、即座に快諾された学校側にも大いに感動しました。

工場視察という経済交流だけでなく、こういった文化交流の新たな一面も持った訪中団。日中経済交流研究会の範囲を超えて、同友会の運動として広まっていけば素晴らしいと感じました。有意義な訪中ができたことを感謝します。



# 2013年訪中団報告 in武漢

同友会事務局主任 和田 太三朗

前回の蘇洲訪問から約5年ぶりの中国でしたが、今回もいろんな驚きと発見の連続でした。

まず1日目 関西空港9時40分発のMU730便で、約1時間20分のフライトの後、13時10分 上海空港から武漢空港まで約2時間のフライトで計2回の食事(パンとご飯のセット…)をしっかりと摂ってなんとか武漢空港に到着。

あいにくの雨でしたが、預けていたバッグが雨に濡れているのにビックリ…なんで濡れてんねん!

空港からお迎えのバスで移動中の車窓から見える風景はまさにスクラップ&ビルド!高層マンション群が建っていると思えば、潰された住宅の残骸の山があったりと5年前に訪れた蘇洲のように目まぐるしく風景が変わっていきます。

夕方にやっと繁華街中心のホテルに到着。風景は難波の戎橋付近の様に賑わっていて人・人・人…

その日の夕食はホテルのレストランで溢れるほどの料理が運ばれてきてビックリ、そして請求書を見てさらにビックリでした。

2日は朝早く起きてホテル付近の散策に出ました。昨日の夜に出たであろうゴミを片付ける人たちが、屋台で食事している人たち。大音響がする方に行ってみると、太極拳ではなく大勢の主婦の方がダンスをしていて人々の朝から溢れるエネルギーにビックリ。

朝食のあと赤壁へバスで観光に向かいましたが、長い時間移動した割にはつぶれかけのテーマパークの様な施設や、歴史の重みを一切感じさせないつくりなど、ほったり感満載で馬車代700元に何故か怒りが…

その後の島巡りでお坊さんに拉致?されてお布施?200元をするなど、中国の人の押し強さを痛感した1日でした。

3日目はシスプロを見学し武漢の基礎的な知識を得た後、武漢華中大学へ。日本でいう東大クラスのエリート学生さんのペラペラの日本語にビックリなのと巨大な大学敷地と人口(約8万人)に更にビックリ。エリートの彼らでも「どんな資格を持っていたら就職できるのか?」「どんな基準で学生を選んでいるのか?」の質問に、どこかの国とよく似ているなあと。

その後、2012年2月に武漢に進出した城南製作所(自動車のパワーウィンドウ部品をつくる会社)を見学したりとハードの中にも考えさせられた1日でした。

4日目は華中科技大学を訪問。前日の武漢華中大学とは違い、いわゆるボトムの大学なのですが、「自分達は学歴が低いのでコンプレックスを持っている。何を身に付けたら就職できるのか?」「学歴で会社は人を選ぶのか?」と同じ様な質問が…

その間に対して「企業は学歴なんかで判断しない。その人の人柄や真面目さ、皆と仲良く一生懸命できるかが大切」という樋爪会長の発言に皆納得した様子。その後急遽、樋爪会長と豊田さんが大学に残ってキャリア支援授業を行なうなど、学生さんにとって貴重な1日だったと思います。

その後、考感国家開発区の見学に行ったのですが、その規模にビックリ考感市政府の歓迎夕食会で何度も乾杯しながら親交を深めて武漢夜はふけていきました。

今回内陸部に行った感想として①経済の発展スピードが想像以上に速い②明らかに貧富の差が拡大している③経済発展による物価の上昇が庶民の生活に圧迫しており、それにあわせて賃金も上昇している。④経済発展による環境問題⑤成長を続ける大国とどう付き合っていくのか?など等いろいろ考えさせられた訪中でした。百聞は一見にしかずまさにその通りの訪中団でした。

